

施行七十一周年を迎えた憲法記念日の五月三日、安倍政権がねらう九条改憲阻止を掲げて全国各地で集会やデモ、宣伝など多彩な行動が展開されました。有明・東京臨海防災公園では「9条改憲NO!」（主催・同実行委員会）、昨年を上回る六万人の参加者が会場を埋めました。婦民からも多数が参加、憲法守れ！の熱気を共にしました。

9条改憲NO! 平和といのちと人権を

5.3憲法集会

東京・有明防災公園に6万人



「いいね！日本国憲法」のプラカードを掲げて

心配された雨も上がり五月の風が吹き抜ける広場で、集会は午後一時開会宣言。実行委員会を代表して高田健さんが主催者あいさつ、「公文書改ざん・隠ぺい、防衛省のシビリアンコントロールの崩壊、セクハラなど、行政権力の崩壊現象が進んでいます。世論調査によると、安倍政権下での改憲に五八%が反対、内閣支持率も急速に下落しています。しかし安倍政権がいかにボロボロに見

うことは私たちの生きる姿勢であり誇りです」

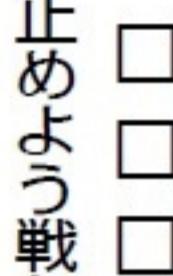
竹信三恵子さん（ジャーナリスト）は「憲法九条は広いすそ野を持つていることを知る必要があります。戦前、日本の軍事費は国家予算の七八割を占めていました。このあり方を転換させるために戦争をしてはいけないとして定められたのが日本国憲法であり、九条です。医療や介護、福祉、教育をよくしていくためには九条を守ることが大事です」と発言。

清末愛砂さん（室蘭工業大学准教授）は「自衛隊の憲法への明記は、軍事組織を憲法上の公的なしにすることです。自衛隊の主たる任務は国防です。しかし必要に応じ公共の秩序の名の下に治安活動も認められており、その存在にすることです。自衛隊の主たる任務は国防です。しかし必要に応じ公共の秩序の名の下に治

り、民衆に銃を向ける可能性もあるのです。戦争法により武力行使が可能になった自衛隊は抵抗する民衆を弾圧する可能性が増すことを意味します」と強調しました。

止めよう戦争への道

えようとも自然には倒れません。立憲野党と協力し、今日を安倍政権打倒の新たな出発点としてたたかいを進めましょう」と呼びかけました。



プラカードアピール（撮影・田中章史）



安倍政権今すぐ退陣

政党あいさつに移り、立憲民主党・枝野幸男代表、日本共産党・志位和夫委員長、民進党・大塚耕平代表、社民党・又市征治党首が次々に登壇して連帯あいさつ。「憲法九条改憲反対！」「安倍政権は今すぐ退陣！」と市民と共にプラカードを掲げてコール。自由党・小沢一郎代表がメッセージを寄せました。

沖縄、フクシマ、教育、働き方など八つのテーマ

3千万署名の達成を

山内敏弘さん（一橋大学名誉教授）は「自民党の改憲案では、自衛隊は必要な自衛の措置をとりうる実力組織とされますが、憲法に明記されれば、日本社会の軍事化は格段に進むでしょう。国民の知る権利や表現の自由が制限され、文民統制も機能不全となることは、さきの日報問題からも明らかです。戦争への準備ではなく、憲法九条を生かして平和の準備をしようではありませんか」と語りました。



3千万署名の達成を

諏訪原健さん（安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）が「憲法の理念を私たちのものにして未来につなげていこう」と呼びかける連帯あいさつ。「9条改憲NO! 全国市民アクション」の長尾ゆりさん（全労連副議長）は「安倍9条改憲NO! 全国統一署名」（「3000万署名」）が千三百五十万人（四月末時点）を超したことを報告しました。

福山真劫さん（総がかり実行委員会共同代表）が「草の根から三千万の署名を、野党と連帯して安倍政権を倒そう」と力をこめ訴えました。